

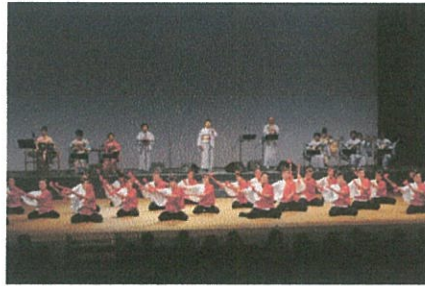
団体名	岡山県民謡民舞連盟	
	代表者	藤本寿弥
	記載者	田中みずほ
所在地(市区町村名のみ)	岡山市東区中川町	
活動目的	残し伝えるべき素晴らしい節がある一地域文化を色濃く反映し、四季折々の日本人の生活に密着し継承されてきた民謡民舞。この伝統的大衆芸能は衰退しています。本公演では、その魅力を幅広く伝えるべく、10周年の節目に、全国の民謡・民舞愛好者やまだ触れたことの無い皆さんにそのすばらしさをアピールします。	
団体の紹介	寿弥会・倉敷合同民謡会・みずほ倶楽部・北部明泉会・宮坂流津山銭太鼓保存会・八峰会・笠岡寿会民舞ひばり会・海野流ひろみ会・備北民舞会・千屋牛追唄保存会・佐伯盆踊り保存会・みずほ倶楽部和気ふじ組・宮坂流本部・日本すず心連盟など今公演出演者は246名。2007年に創立した岡山県民謡民舞連盟は、県下での定期公演や国民文化祭おかやま2010「民謡・民舞の祭典」の主催団体になるなど、岡山県の民謡民舞を全国に発信する目的で発掘や編曲、新たな民舞の振り付けや、昔ながらの生活に密着した動きを取り入れた所作や、年中行事にまつわる踊りを舞台エンターテイメントとして発表することに真摯に取り組んできました。定期公演ではたくさんのお客様の動員を図り、そして楽しんでいただけるよう、県下に広く在住の連盟会員が時間をかけて強調して演奏と踊りを練習しています。	
助成を受けての活動内容	<p>岡山県民謡民舞連盟十周年記念公演「花紅柳緑」と題し885席を有する岡山県倉敷の観光地の中央、倉敷市芸文館で記念公演を開催。舞台の構成・演出、舞台監督、ステージデザイン、音楽監修や編曲などをプロの方に依頼出来ました。県下のアマチュア民謡団体では通常、出演者が既存の踏面をなぞり、舞台・照明等は会場の担当者などに任せることがほとんどです。内容はマンネリ化し集客も少なく、愛好者以外の方に民謡・民舞の魅力のアピールすることが大変難しかったのですが、一緒に舞台制作が出来たことは、とても勉強になりました。洗練された演出や編曲で、古くさいとか、年配者しか愛好者がいないというイメージを払拭でき、沢山のお客様に今後の定期公演へのご期待とご支援を得ることができました。</p> <p>岡山県内の楽曲をメインにした舞台構成。また全国コンクール受賞曲「貝殻節」（総理大臣賞受賞）や発掘民謡民舞「ご後園節」など岡山民謡の発信。また、幼児・小学生の育成など目的に附随した内容「八木節」。など</p> <p>曲目：下津井節 しげさ節 鞆の浦大漁節 隠岐祝い音頭 宮津節 二声上げ音頭 北の盆唄 秋田船方節 貝殻節 おこさ節 よさこい囃子踊り 伊勢音頭 天竜下れば 花笠音頭 本庄追分 宇野三ツ星盆踊り唄 磯原節 元唄貝殻節 津軽甚句 兵庫節 豊島餅搗き唄 九十九里大漁木遣り唄 八木節 安来節 喜代節 勝山土俵唄 牛深ハイヤ節 米山甚句 十三の砂山 因幡大黒舞 作州追分 越中小原節 千屋牛追唄 鶴山さんさ ご後園節 新庄田植唄 備中ござおり唄 南部俵積み唄 音戸の舟唄 そーらん節 網のし唄 川越舟唄 秩父音頭</p> <p>十周年を迎え互いに蓄えてきた舞台力を発揮することができました。</p>	
助成を受けての成果	会場に設置された舞台装置、表情豊かな照明や映像、シンセサイザー等を使った邦楽器と西洋音楽との融合。そして、味わい深い古謡民謡。心に残る発掘民謡や盆踊り。今昔、幼児から年配者と幅広い出演者。お客様に生の民謡民舞を紹介できた今公演は、独自の魅力を印象づけることができました。老若男女の観客が会場を埋め尽くすほどの満員で内容も上記のように充実したものができ、大盛況となりました。	
今後の活動の課題点	今公演の盛況が次回の公演への期待となり、集客はより多くの方が来てくださると見込まれる。そのお客様の期待に添えるべく、失われつつある文化を再現しなご一層の面白さ楽しさを加え特に若い世代へのアピールができるかが、次の世代への橋渡しとなることだと強く感じている。民謡の編曲、演奏技術、民舞の表現力を高めることが不可欠です。	
問い合わせ連絡先もしくは、ホームページアドレス(加入希望の方などへのお知らせなど)	岡山県民謡民舞連盟 E-mail:mizuho@rock-roll.net 事務局 TEL:086-943-1937	

※ このページは、財団ホームページや印刷物などで公表される資料として使用される場合があります。A4用紙1枚程度におまとめください。(他の報告書との重複可)
写真・チラシ・パンフレット(PDFもしくは、画像)等を添付していただいても結構です。

※ 新聞掲載記事

ステージ華やか
10年記念公演
県民謡民舞連盟
結成10年目を迎えた
県民謡民舞連盟の記念
公演「花紅柳緑」が10
日、倉敷市中央の市芸
文館で開かれ、華やか
なステージで観客約9
00人を魅了した。
テーマは「心に残る
伝えたい、いのち輝く
民衆の踊り」。郷土芸
能の伝承に取り組み幅
広い年代の計約300
人が出演した。
県を代表する民謡・
出演者
華麗なステージで観客を魅了する
(中原由華)

※ 舞台写真



「隠岐祝い音頭」 銭太鼓



「勝山土搦き唄」連盟5団体のチームワークのよさ



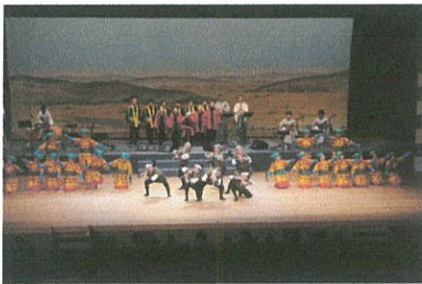
「天竜下れば 昭和の流行り唄民謡の代表曲



「兵庫節」佐伯盆踊り音頭取りによる昔ながらの総踊り

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。

2016年4月13日 山陽新聞朝刊 29ページ



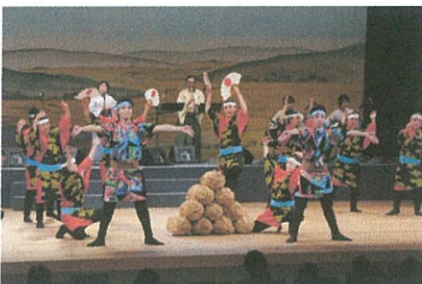
「新庄田植唄」田植えの風景を滑稽に表現



「おこさ節」秋田の酒宴での楽しさや



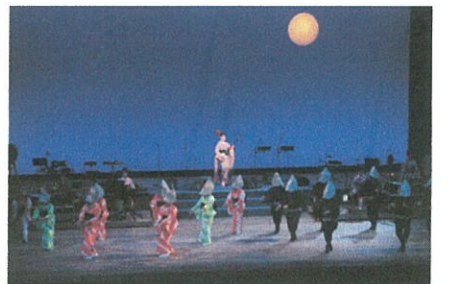
「千屋牛追唄」我が子のように育てた牛を手放す涙を誘った



「南部倭積み唄」秋の収穫を祝い盛り上がりは最高潮



「鶴山さんさ」津山の城唄を花見に寄せて舞う



「越中小原節」日本三大盆踊りの一つ 哀愁をおびた風の盆



若き力 総理大臣賞受賞「貝殻節」



若き輝き 子供連30名の「八木節」見事な太鼓ばちさばき



若き響れ 祝いの爺婆を小学生が熱演 大好評



若き雫 子供たちの唄に子供連の踊り「よさこい鳴子踊り」



若さあっぱれ 「作州追分」で銭太鼓の妙技を魅せた



「下津井節」地元民謡をゲストと共に華やかにフィナーレ